

2) 人口動態の将来展望

a) 目指すべき姿

将来展望を行うにあたり、「活力ある地域コミュニティの維持」を目指すべき姿とし、2060（令和 42）年までの人口動態の推計を行う。

b) 条件設定の考え方

「活力ある地域コミュニティの維持」にも様々な要素が考えられ、数値化は難しいが、なかでも、「地域に子どもが一定数いて、健やかに成長できること」は、主な構成要素のひとつであると考えられる。

そこで、2040（令和 22）年においても、各小学校 120 人以上を維持※するために必要な出生率を試算し、その場合の人口動態を推計することとした。

※ 1 「多自然町村の持続可能モデルに関する調査研究報告書」（総務省 2013.3）抜粋

『地域が持続・維持するための人口の仮説として、地域の中に小学校が最低 1 校で生徒数が 120 人以上（各学年 20 人以上を仮定）を維持できる人数を設定』

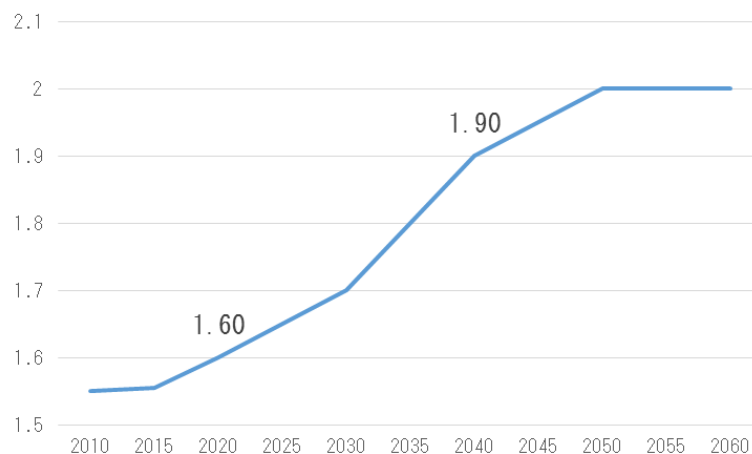
※ 2 ※ 1 の「地域」を、大刀洗町における現在の小学校区と読み替える。

c) 必要な出生率の試算結果

一定の仮定※をおいて行った試算の結果、2040（令和 22）年においても、各小学校 120 人以上を維持するために必要な合計特殊出生率（＝出生率の目標）は、2020 年（令和 2）年で 1.6、2040（令和 22）年で 1.9 であることが分かった。

※ 転入促進と転出抑制により、社会増減（転入－転出）を拮抗させていくことを想定。

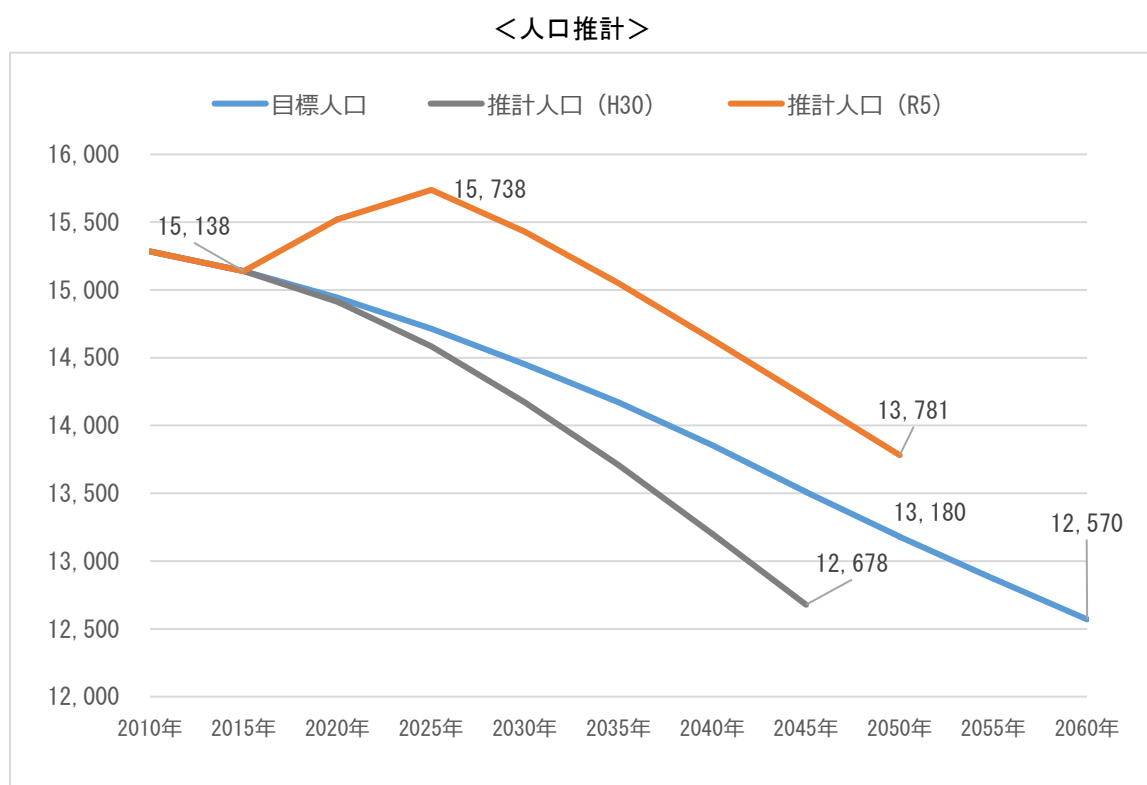
＜必要な合計特殊出生率＞



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
合計特殊出生率	1.55	1.555	1.60	1.65	1.70	1.80	1.90	1.95	2.00	2.00	2.00

b) c) の出生率を達成した場合の人口推計

出生率を実現した場合の人口は、2020（令和 2）年で 14,943 人、2040（令和 22）年で 13,854 人となる。目標人口を設定時に基礎数値となった国立社会保障・人口問題研究所発表の 2018（平成 30）年推計人口と 2023（令和 5）年人口から推計人口値は改善している。そのため 2040（令和 22）年の 2023（令和 5）年推計人口は目標人口と比較して 780 人上回っている。



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
目標人口	15,284	15,138	14,943	14,715	14,453	14,171	13,854	13,509	13,180	12,870	12,570
推計人口 (H30)	15,284	15,138	14,913	14,585	14,171	13,707	13,201	12,678	-	-	-
推計人口 (R5)	15,284	15,138	15,521	15,738	15,429	15,050	14,634	14,209	13,781	-	-

(出典)

推計人口の 2020（令和 2）年以前は、総務省「国勢調査」の実績値
2025（令和 7）年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の推計値